

すべての子どもたちに「教育への権利」を 「多民族共生教育フォーラム 2008 大阪」

実施報告書

1. 取り組んだ事業の背景と目的

グローバル化の加速と人口減時代を迎えている中で、日本社会における「多民族・多国籍・多文化」化の流れに拍車がかかっています。外国人登録者は2007年末で過去最高の215万人を越え、10年前と比べて約50%も増加率となっている。在日コリアンの「オールドカマー」に加えて、特に、中国人、ブラジル人、フィリピン人などの「ニューカマー」と呼ばれる人々が急増している。

いまや、日本全国の都市や地方で、「生活者」として外国人が暮らす時代となり、日本人の結婚も、06年には16組に1組が国際結婚となった。また、労働力人口の90年代末からの減少に伴い、すでに外国人が日本の経済や社会を支える不可欠な役割を果たしている。

一方、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていく社会」(2005年 総務省「多文化共生推進プログラム」)を構想する上で、日本社会における外国人の受け入れ態勢の整備は、大きく立ち遅れていると言わざるをえず、特に、不就学問題など外国人・民族的マイノリティの子どもたちの教育課題は深刻な状況にある。

こうしたなか、急増する外国人学校の制度保障を主な課題目標とする「多民族共生教育フォーラム」は、2005年の神戸を皮切りに、2回目の名古屋、3回目の東京を経て、今年4回目を迎えた。同フォーラムにおける活発な議論は、「多民族・多文化共生教育」のネットワークを着実に広げるとともに、具体的な制度支援につながるなど、「多民族・多文化共生教育」の充実に向けた成果も生み出しつつある。

人権を基軸とした在日外国人施策にいち早く着目し、民間レベル、行政レベルの双方が連携を図りながら取り組んできた大阪において、今回はさらに議論を深め、外国人学校の制度保障や「多民族・多文化共生教育」に関わる相互交流を一層進めたいと考える。

同フォーラムには、当事者である外国人学校の関係者や保護者、子どもをはじめ、行政、企業、NPOなど多様な立場やセクターの人々に参加していただきながら、活気ある議論と交流を重ねたい。

<主題>

- (1) 外国人・民族的マイノリティの子どもたちの学習権を実現しよう！
- (2) 外国人学校・民族学校の制度的保障を実現しよう！
- (3) 多民族・多文化共生のために、子ども、大人の相互交流を進めよう！

2. 事業の概要

(1) 事業の名称

「多民族共生教育フォーラム 2008 大阪」

(2) 開催日程 2008年11月22日(土)～24日(月)

(3) 開催場所

22日＝大阪市立東淀川人権文化センター(大阪市東淀川区西淡路1-8-5)

23日＝難波別院御堂会館(大阪市中央区久太郎町4-1-11 地下鉄御堂筋線本町駅)

(4) 主催 共催

「多民族共生教育フォーラム2008大阪」実行委員会
外国人学校・民族学校の制度的保障を実現するネットワーク
特定非営利活動法人コリアNGOセンター

(5) 後援

在日本ブラジル大使館、
大阪府、大阪府教育委員会、大阪市、大阪市教育委員会、堺市、堺市教育委員会
兵庫県、兵庫県教育委員会、神戸市、神戸市教育委員会
奈良県、奈良県教育委員会、和歌山県、和歌山県教育委員会、
京都市、京都市教育委員会、滋賀県、滋賀県教育委員会、京都府

(6) 助成

財団法人大阪国際交流センター
独立行政法人国立青少年教育振興機構(子どもゆめ基金)
庭野平和財団

(7) 協賛

サクラクレパス株式会社、在日本大韓国民団大阪府堺支部、
NPO法人京都コリアン生活センターエルファ、大阪府教職員組合、
世界人権宣言大阪連絡会議、三井物産株式会社、連合大阪、
学校法人大阪朝鮮学園

(8) 実行委員会

(特活) いこま国際交流協会、大阪府教職員組合、(特活) 関西国際交流団体協議会、
(財) 神戸学生青年センター、在日コリアン青年連合、神戸在日コリアン保護者会、
全国在日外国人教育研究協議会、(特活) 多文化共生センター、(特活) トッカビ子ども会、
(財) とよなか国際交流協会、奈良在日外国人保護者会、(社) 部落解放・人権研究所、
民族教育ネットワーク、RINK 同胞保護者連絡会、全朝教大阪、大阪平和人権センター

(9) 連絡先

多民族共生教育フォーラム 2008 大阪実行委員会事務局

〒537-0025 大阪市東成区中道3-14-17 さんくすホール2階

(特活) コリアNGOセンター気付(担当:金光敏)

TEL: 06-6978-7676 FAX: 06-6978-7686 E-mail: center@korea-ngo.org

3. プログラムと事業成果

■多民族・多文化の子ども交流会

＜プログラム＞

日時＝11月22日（土）13時～23日（日）17時30分

会場＝大阪市立東淀川人権文化センター

テーマ＝「多民族・多文化の子どもたち～出会おう、つながろう、友だちになろう～」

内容＝外国人学校や日本の公立学校に学ぶ子どもたちが集い、子どもたちの文化的背景を活かした相互文化交流ワークショップ

参加者＝96人 参加費＝無料

プログラム＝

13:00～14:30 アイスブレイキング「出会おう、つながろう、友だちになろう」

名札、名刺づくり、グループづくり

14:30～17:30 いっしょに夕食づくりにトライ

18:00～20:00 横断幕づくり

20:00 宿舎に移動

9:00～11:00 スポーツ大会

11:00～16:00 遠足「天王寺動物園に行こう」

天王寺動物園から全体会会場へ応援メッセージ

17:30 子どもたちが御堂会館に到着、一緒に閉会式

＜事業成果＞

- 予定人員に達しなかったものの、96名の子ども参加があり、スタッフ25名を含んで121名の参加があった。
- コリア、ブラジル、中国、日本の子どもたちが参加し、互いの文化を知るきっかけになった。
- それぞれの子どもたちが仲間作りに取り組み、協働作業に取り組むことで関係づくりにつながった。
- さまざまな立場のスタッフが子どもたちに関わることで、大人と子どものパートナーシップを築けた。

■多民族共生教育フォーラム・プレシンポジウム

＜プログラム＞

日時＝11月22日（土）18時～21時

会場＝大阪市立東淀川人権文化センターホール 参加者＝120人

テーマ＝「多民族・多文化の子どもたちの教育権と日本の学校教育」 資料代金1000円

プログラム＝

地域や学校における多民族・多文化の子どもたちの学びをまもる取り組みについて

パネリスト＝榎井縁：（財）とよなか国際交流協会事業課長

小川裕美：可児市外国人児童生徒コーディネーター

呉洋子：大阪市民族講師会共同代表

善元幸夫：新宿区立大久保小学校教諭

コーディネーター＝リリアン・テルミ・ハタノ・甲南女子大学准教授

＜事業成果＞

- 公立学校における外国人の子どもたちの教育課題について各地の実践事例を相互に交流

できた。

- 教諭、支援コーディネーター、民族講師、国際交流協会という各領域からの実践報告を紹介することで、外国人の子どもを社会全体で関わっていくネットワークの必要性について喚起できた。
- プレシンポジウムの中で会場とのディスカッションを行い、弁護士、市民活動家、研究者、行政などの幅広い人々と意見交換ができた。
- 外国人の子どもの教育という観点から多文化共生の社会づくりについて課題提起ができた。

■多民族共生教育フォーラム 2008 全体会

<プログラム>

日時＝11月23日（日）10時～18時

会場＝難波別院御堂会館（大阪市中央区久太郎町4-1-11 地下鉄御堂筋線本町駅）

参加者＝250人 資料代金1000円

主題＝（1）外国人・民族的マイノリティの子どもたちの学習権を実現しよう！

（2）外国人学校・民族学校の制度的保障を実現しよう！

プログラム1部<10:00～12:00>

（1）ビデオ上映「多民族共生教育フォーラム2007 東京」

（2）開会の挨拶

丹羽雅雄・多民族共生教育フォーラム2008 実行委員長

（3）基調報告

（4）日本各地の取り組みの報告、全国の外国人学校からのメッセージ

外国人学校の制度的保障を実現する東京ネットワーク（準備会）

兵庫県外国人学校協議会

神奈川県外国人学校ネットワーク（準備会）

埼玉県外国人学校ネットワーク（準備会）

日本ブラジル学校協議会（AEBJ）

アメラジアンスクール・イン・オキナワ

国際子ども学校

サンパウロ学園

2部<13:00～14:30>

外国人の子どもたちからのメッセージと文化披露

<子どものアピール> 学校法人大阪朝鮮学園東大阪朝鮮中級学校生徒

コレジオ・デザフィオ（ブラジル文化学園）の元児童

<文化発表>

学校法人大阪朝鮮学園大阪朝鮮第四初級学校

学校法人白頭学院中・高校伝統芸術部

財団法人とよなか国際交流協会『NAZCA』

3部<14:45～17:50> パネルディスカッション

テーマ＝「多民族・多文化共生教育へのロードマップ2～外国人学校の制度的保障を中心に」

目的＝①日本の外国人政策が大きな転換期を迎える中で、市民主導で、多民族・多文化共生教育に関わる政府、行政、企業、市民の各セクターが参加する公開討論の場を提供する。

②外国人学校に在籍する児童・生徒の健康診断をはじめとする学校保健の制度保障に向けた必要性について、認識を共有する。

パネリスト＝山下栄一・参議院議員（外国人学校及び外国人子弟の教育を支援する議員の会幹事長）

水岡俊一・参議院議員（外国人の子どもの教育の充実をめざす研究会呼びかけ人）

山崎一樹・京都市副市長（元総務省自治行政局国際室長）

柴崎敏男・三井物産（株）CSR推進部シニア・フィランソロピー・スペシャリスト

小島祥美・愛知淑徳大学教員

金光敏・特定非営利活動法人コリアNGOセンター

コーディネーター＝有田典代・（特活）関西国際交流団体協議会事務局長

○日本の公立学校で勤務する外国籍教員による特別アピール

4部＜17:30～17:50＞

（1）「フォーラム 2008 宣言」の採択

（2）多民族・多文化の子ども交流会に参加した子どもたちによる舞台登壇

（2）閉会の挨拶 田中宏

外国人学校・民族学校の制度的保障を実現するネットワーク共同代表

<事業評価>

○一部において、各地の外国人学校支援活動の現状が報告された。その中で、公的な支援のあり方について行政や関係機関との連携事例、協議事例が報告された。特に、外国人学校の子どもたちに対する学割適用問題について、鉄道会社と取り組んできた協議内容が報告され、具体的な支援策についての取り組みが報告された。

○また、外国人学校当事者からの発言もあり、そこで学ぶ子どもたちの様子が紹介されたほか、外国人学校の経営状態の難しさ、通学児童生徒らの家庭に対する負担軽減問題について、昨今の経済状況とも関連しながら、具体的事例が報告された。

○二部において、子どもからのアピールがあった。朝鮮中級学校に通う生徒は、通学時に嫌がらせを受けた経験を語り、民族学校に対する正しい理解を持ってほしいと社会によびかけた。また、コレジオ・デザフィオに通っていた児童は、地元の公立学校に通ったものの、再三にわたるいじめに苦しんできたこと、いじめを避けるために通いなおしたブラジル学校で言葉や文化について学ぶことができ、楽しい日々を過ごしたこと。しかし、経済的な理由から再び公立学校に通うと、いじめられているという現状を作文として読み上げてくれた。外国人学校と、外国人の子どもの現状に対する一種の告発であり、会場に集まった人々に大きな宿題が託された。

○三部の全体会シンポジウムでは、立法、行政、企業、現場に携わる支援者及びNGOのそれぞれの専門領域からの報告のほか、立法の可能性、行政支援の可能性などについて議論された。国会議員は国政レベルでの今後の取り組みに豊富を語り、三井物産株式会社の柴崎氏は、三井物産がブラジル学校支援に取り組んだ経緯と経験を語り、京都市の山崎副市長は、自らが総務省国際室時代に関わった「地域における多文化共生推進のプログラム」策定に関わるねらいを語った。また、現場に従事する支援者およびNGOの立場から、小島氏と金氏は政策立案過程に当事者が参画することの重要性を強調した。シンポジウムは全体を通じて、それぞれのセクターが互いに連携することの重要性を確認し、今後とも外国人の教育支援で協力していくことについて話された。

○今回のシンポジウムで、子どもの健康を支える仕組みとしての学校保健の充実化について議論し、今後、立法、行政、企業、市民セクターが協力していくことを確認した。

■外国人学校フィールドワーク

日時＝11月24日（月・祝）10時～16時

テーマ＝「外国人の子どもの教育の現状を知ろう」

訪問先＝滋賀県愛荘町のコレジオ・サンタナ（サンタナ学園）、

学校法人大阪朝鮮学園東大阪朝鮮中級学校（大阪市生野区）、

○コレジオ・サンタナには45名、朝鮮中級学校には15名が訪問した。それぞれの学校が訪問を歓迎してくれ、コレジオ・サンタナでは校長先生からの講演の後、バーベキューを振舞ってもらうなどの歓待を受けたほか、朝鮮中級学校では校長先生からのレクチャーの後、子どもたちによる素晴らしい文化公演が披露された。それぞれの学校が、今フォーラム参加者を歓迎してくれたのは、まさに現状についての関心を継続してほしいという切実な願いが込められており、また講演やレクチャーなどで報告された外国人学校・民族学校の現状は、社会的な矛盾や不作為による無施策などが多大なる負担を子どもたち、そして子どもの教育にかけていることをさらに浮き彫りにした。